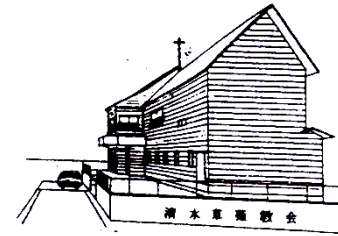


週報

2008年 7月 6日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《来週の聖書から》先週の続きになります。イエス様が水の上を歩いて弟子たちが船ごと溺れそうになるのを助けられたというのです。沢山の説教でこの箇所が語られますが、奇跡についてははっきりと語るのを、かなりの説教者たちは、避けているようです。奇跡の意味は語っても、奇跡はあるともいいにくいし、奇跡の時代は終わったともいうのもどうかと、感じているようです。カトリック教会では、聖人に加えられる条件として“奇跡を行うこと”が定められています。また“奇跡の時代は終わった”と主張する教会もあります。“ザビエルは、海中に落とした十字架のネックレスを、(カニにひろってもらって)また手にした”とか“マザーテレサは、多くの病人を癒した”という具合にです。またカトリック教会でなくても“私には癒しの奇跡をなす賜物がある”と主張する人々も、クリスチャンの中にはいます(多くの場合、病が治癒しなかったら、“あなたの信仰が足りなかったのだ”というのですが)。どうなのでしょう。私達は、癒されることを祈ります(主の名によって、すでにかなえられた、あるいは解決されたと思って祈ります、ヨハネ14:13)。これはとても大切なことで、聖書のメッセージの中心の一つでしょう。また癒しは信仰によらず、神が必要とされたときに、奇跡として成されもします(ルカ17章)。ここでは癒された者のうち一人だけが信仰を明らかにしています。私達に可能なことは、奇跡を起こすことでもなく、今はもうあり得ない、聖書の世界だけの奇跡をうらやましく思うことでもなく、願うことです。現実には私たちは多くを願いましたし、時に、不可能に思えるようなことも願いましたし、それらのことがかなえられた経験をもっています。ある時は、ごく普通の当たり前の仕方でかなえられ、またある時は、人知を超える、説明のしようもない方法でかなえられてきました。私たちが知っているのは、主イエスの奇跡は今も私達の救いとともにあるということだけでしょう。ですからどうしようもない時、私達は祈ってしまうのです。しるしや力や業は神様のものです。私達が主を信じた時のこと、あるところまでは説明できますが、その先は“主の導きによって”といわざるを得ない不思議を、経験しているのは神の力のしるしなのです。あらしの中で伴なってくださる主に信頼しましょう。